公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院

たまねぎ通信

No.66
2025.4



糖尿病患者さんを地域で診る

患者の負担軽減と
医療の専門性を担保する
体制づくり

糖尿病患者さんを地域で診る



患者の負担軽減と医療の専門性を担保する体制づくり

勤医協中央病院では１型糖尿病と管理が困難な２型糖尿病の治療に全診療科的連携で対応しています。救急科やICUと協力しながら、糖尿病急性合併症や内分泌緊急症の救急対応を行い、定期的な合併症の検査では、内科や眼科などと全身状態の把握や推移を観察します。病状が安定した患者さんは地域のクリニックへの逆紹介を積極的に行っています。

糖尿病患者さんを地域で診る体制の構築へ

勤医協中央病院が現在めざしている糖尿病治療は「地域のクリニックと連携しながら、患者さんに良質な専門医療を継続的に提供すること」です。

クリニックには「血糖コントロールが良好な患者さんの糖尿病管理」をお願いし、当院では血糖コントロールが難しくなったり、合併症の検査や治療が必要になった患者さんを診察します。栄養療法や運動療法も取り入れ血糖管理向上をめざしながら、治療内容の見直しや提案を行います。

血糖コントロール安定後は、クリニックで対応しやすい2型糖尿病の患者さんを中心に逆紹介（クリニックでの受診・管理）していますが、今後は1型糖尿病も逆紹介する連携体制の整備も進めます。

逆紹介の際は、効率的で継続性のある連携ができるように糖尿病連携手帳を活用し、糖尿病治療の変更に伴う手技や観察項目などを診療情報提供書に記載しています。



勤医協中央病院 院長
糖尿病内分泌・腎臓病副センター長
ゆのあきこ
湯野 暁子
【専門分野】糖尿病内分泌内科
【資格など】日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定教育施設指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科指導医

生活にインスリン量を合わせる治療法が可能に

1型糖尿病の患者さんはインスリン製剤の注入を毎日行う必要があるため、これまでは患者さん自身が一日数回の血糖値測定とインスリンの自己注射を行っていましたが、「リアルタイムCGMに連動したインスリンポンプ（保険適用）」の登場によって、自動的に少量の基礎インスリンを24時間注入し、食事に合わせてボタン操作で追加インスリンを注入するAID療法が可能になりました。

当院では9年ほど前から「リアルタイムCGMに連動したインスリンポンプ」を導入しています。患者さん自身が機器の使い方を習得しなければならないため、糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士、外来や病棟の看護師や管理栄養士が個別指導を行っています。また、就労世代の患者さんも多く外来で初期導入できる体制も整えています。

医療の進歩を共に学び共に実践するために

糖尿病患者さんを診ている地域のかかりつけ医と当院専門医の「顔の見える関係を作りたい」と、2014年に開始した当院主催の「東区糖尿病内分泌セミナー」は、参加者を増やしながら年2回の開催を継続しています。当院の職員は当院多目的ホールに集まり、院外の参加者はウェブ会議ツールで参加します。初回参加者は医師5人のみでしたが、現在は全国各地で糖尿病治療に取り組む看護師や管理栄養士、理学療法士など100人前後が参加し、実践事例や症例報告などを共有しています。

医療技術や治療デバイスの進歩が著しいからこそ、糖尿病治療における情報や技術を多職種が共有し、地域での医療連携やチーム医療の質向上をめざしたいと考えています。

地域の医療機関の役割分担



勤医協中央病院の糖尿病専門医

- 糖尿病新規発症や血糖コントロール不良の患者さんの治療や療養指導を多職種体制で行います
- 糖尿病の確定診断
- 血糖コントロール・糖尿病教育
- 治療法の見直し・提案
- 注射製剤の導入・療養指導
- 定期的な検査、急性合併症の緊急治療
- 慢性合併症や併存症の専門治療

かかりつけ医

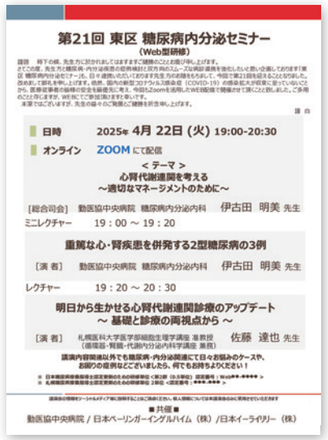
- 血糖コントロール安定時の定期通院での処方、合併症の早期発見などを担います
- 血糖管理が安定している患者さんの糖尿病治療・管理
- 糖尿病を自覚していない潜在的患者さんの初期評価
- 合併症評価のフォロー
- 血糖コントロールが不良な患者さんの治療方針の見直し

→ 勤医協中央病院への紹介

勤医協中央病院は
地域の糖尿病内分泌診療のセンター機能を担うことをめざしています

糖尿病専門医のクリニック訪問活動

東区糖尿病内分泌セミナーの開催



第21回 東区 糖尿病内分泌セミナー
（Web型研修）

日時　2025年 4月 22日 (火) 19:00-20:30
オンライン　ZOOMにて配信

＜テーマ＞
心腎代謝連関を考える
～適切なマネージメントのために～

【総合司会】　勤医協中央病院　糖尿病内分泌内科　伊古田 明美 先生
ミニレクチャー　19：00 ～ 19：20
重篤な心・腎疾患を併発する2型糖尿病の3例
【演 者】　勤医協中央病院　糖尿病内分泌内科　伊古田 明美 先生
レクチャー　19：20 ～ 20：30
明日から生かせる心腎代謝連関診療のアップデート
～ 基礎と診療の両視点から ～
【演 者】　札幌医科大学医学部細胞生理学講座 准教授（循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座 兼務）　佐藤 達也 先生

勤医協中央病院 / 日本ベーリンガーインゲルハイム（株）/日本イーライリリー（株）

地域の医療機関とのさらなる連携をめざしています

リアルタイムCGMに連動するインスリンポンプを使用した AID療法

インスリン治療を最適化する先進機器を活用し糖尿病患者さんの血糖管理を多職種がサポート

AID（Automated insulin Delivery）療法は、CGMで測定されたグルコース値に連動し、自動でインスリンを増減して注入する治療法で、個々人の生活に合わせやすいのが大きなメリットです。適切に機器を使用することができれば、低血糖、高血糖が減り、血糖値を目標範囲内に維持することが可能になります。当院でAID療法を導入した患者さんは2025年2月現在で6人。それぞれに血糖管理が向上していることから、勤医協中央病院では多職種がチームを作り、希望する患者さんの療養指導を進めています。



導入時の指導を担当する
笹川恭子糖尿病看護認定看護師

AID療法を導入した患者さんの血糖管理が向上

健康なすい臓は、常に少量のインスリン（基礎インスリン）を分泌し、食事や血糖上昇に応じて、インスリン分泌量を増やし（追加インスリン）、血糖を正常に保つ働きをしています。その働きを担う機能を持つのが「リアルタイムCGMに連動したインスリンポンプ」です。AID療法は、皮下にセンサーを挿入する「持続血糖測定器（リアルタイムCGMセンサー）」と自動的にインスリンを体内に皮下注入する機器「持続皮下インスリンポンプ」の2つを患者さんが装着し、人工すい臓のように機能させながら血糖管理向上をめざします。

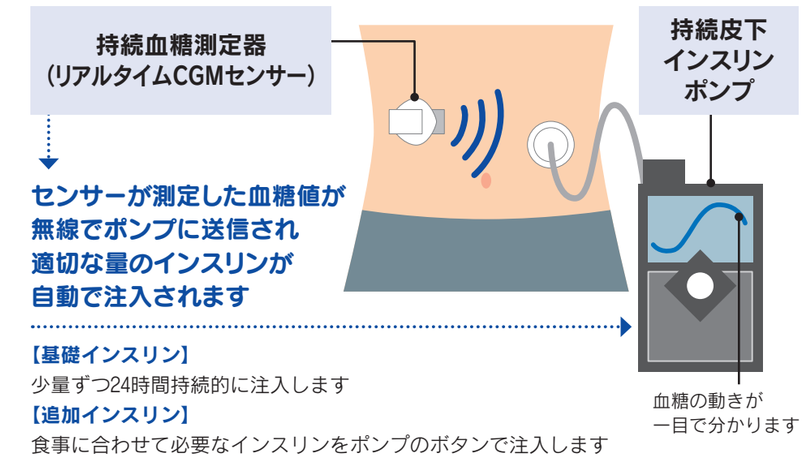
当院で糖尿病の管理をしていた94歳の高齢患者さんは、年に何度も高血糖や低血糖緊急症を起こし、入院を繰り返していましたが、AID療法を導入し、家族や訪問看護師、デイサービス職員から日常的な支援を受けることで血糖管理を向上させることができました。患者さん本人も「血糖値を気にせずに食事ができるようになり、気持ちが楽になった」と話しています。

AID療法 このような患者さんの血糖値管理に有効です

主に1型糖尿病や24時間の血糖コントロールが必要な2型糖尿病の患者さんを対象に実施しています

- 人目や外出先でのインスリン注射に抵抗がある
- 夜間の血糖管理やインスリン注射がつらい
- 低血糖・高血糖を起こしやすい
- 生活が不規則で、生活の変化が大きい

AID療法のしくみ



- お腹などの皮下組織に挿入・留置したセンサーが連続的に血糖参考値（間質液中のグルコースの値）を測定・表示・記録します
- 低血糖や高血糖を予測し、アラームで警告してくれます
- 必要に応じて、インスリンの注入を自動で一時停止したり、再開したりします

外来で糖尿病治療をチームでサポートする 各職種の役割

看護師



外来での療養指導

入院でも外来でも導入指導を実施

AID療法は、患者さんが機器の適切な使い方を習得する必要があるため、糖尿病看護認定看護師が個別指導を行います。低血糖や高血糖の警告アラームの対応も一緒に考え、患者さん自身の適切な血糖管理で生活の質の向上をめざします。入院でも外来でも導入は可能です。

当院では糖尿病治療に関わる看護師が、実際に持続血糖測定装置を2週間にわたり装着し、食事と血糖値の変化やアラーム対応を経験し導入指導に生かしています。皮膚が弱い方は装着固定シールの接触性皮膚炎（かぶれ）に悩まされることがありますが、皮膚トラブルを回避・軽減するための工夫も行います。

臨床検査技師



データ抽出作業

患者さんの待ち時間を短縮

当院では診察前に糖尿病患者さんの採血を検査部で行いますが、その際に患者さんが装着している持続血糖測定器のデータツールを預かり、臨床検査技師がデータの抽出と電子カルテへの取り込みを行います。受け取り直後にデータ抽出作業に着手し、電子カルテ取り込み完了までは10分ほどです。短時間で行う流れを作り、患者さんの待ち時間の短縮とスムーズな診察につなげています。

医師と患者さんが一緒に診察室で電子カルテのデータを見ながら、受診日までの1カ月間の血糖変動の特徴やインスリンポンプの使用状況を振り返ることができ、血糖コントロールの改善につなげています。

医事事務職員



医療材料は確認しながらの手渡し

医療材料の手続き・記録・照合

AID療法に使用する針や消毒液の消耗品は、処方せんお渡しコーナーで事務職員から渡しています。渡し漏れがないように、医療材料出庫伝票と照合のうえ、その場で患者さんとも確認しています。各材料について過不足のないよう、日々の在庫管理も徹底しています。また、医療費の算定にかかる各種手続きや届出も行っています。

毎月1回開催される「糖尿病内分泌外来運営会議」にも医事課職員が参加し、治療の方向性や機器の更新などの情報を得ながら患者さんと接しています。当院では無料・低額診療制度に取り組んでいますので、医療費についての相談がある場合は関係部署につなぎます。

調剤薬局



調剤薬局 大嶋椿薬剤師（東区ひまわり薬局）

1週間後を目途に電話で患者さんの体調を確認

薬剤を渡す際の窓口で、「薬剤の管理方法や自己注射の正しい打ち方など」を患者さんが正しく理解しているかを確認しています。医師から指示がある患者さんには本人の了解も得た上で、1週間後を目途に電話で「副作用の出現はないか、適切に薬剤の使用や管理が行えているか」などを伺います。

患者さんから得た情報は「服薬情報提供書」に記録し、勤医協中央病院の薬剤部へファックスします。院外の調剤薬局からの情報が、迅速に主治医に伝わる体制が整えられています。

こうした糖尿病フォローアップは2022年からの取り組みです。患者さんの自己管理能力を高めることにもつながっています。

糖尿病患者さんの
生活と治療の両立を支援

糖尿病治療を受けている患者さんは、定期的に外来で診察を受け、病状に合った治療薬の選択や合併症の精査などを行っていますが、患者さん自身による日常生活での管理が重要になります。勤医協中央病院では「栄養療法」と「運動療法」を血糖コントロールに生かし、2つを合わせることで治療効果を高めています。

管理栄養士が患者さんの食生活に合わせて指導
食べる楽しみが得られるカーボカウント法



これまで糖尿病の食事療法は、注入するインスリン量を固定し食事内容を制限していましたが、近年、患者さん自身が糖質摂取量を把握する「カーボカウント法：炭水化物の糖質量（カーボ）を計算（カウント）する」が取り入れられるようになり、当院でも2016年から導入しています。

患者さんがカーボカウント法の必要性を理解し習得・実践できるよう、管理栄養士が料理写真付きのテキストを使い分かりやすく説明し、「我慢を強いる食事」から「食べる楽しみも得られる食事」になるよう、患者さんの生活背景や食習慣を見極めながらアドバイスしています。

「基礎カーボカウント法」は、毎食の糖質量（パン、ごはん、麺類などの主食摂取量）をできるだけ一定にすることで血糖変動の安定化をめざします。「応用カーボカウント法」は1型糖尿病患者を対象にしており、食べる予定の食事の糖質量に応じて注入するインスリン量を追加します。食生活にインスリンを合わせて血糖値の安定をめざすことができるので、食事の自由度が上がりストレス軽減につながっています。

糖尿病リハビリテーションに精通したセラピストがプログラムを作成
運動の継続でインスリンが効きやすい体づくり



当院ではリハビリテーション部のセラピストが、糖尿病の患者さんの入院初日に身体評価・体力評価を行い、個別に「糖尿病運動療法プログラム」を作成しています。患者さんは担当セラピストの指導下で退院まで個別訓練や自主訓練を行い、退院後の日常生活に取り入れられる運動方法や手順を実践しながら学びます。

セラピストは医師や看護師と連携して患者さんの病状や合併症などを把握し、患者さんとの会話を通じて生活背景や心理状況などを理解して個々人に応じた目標を定めています。

糖尿病治療中の患者さんが運動を習慣化できるとインスリンの効きが良くなり、インスリンの注射量を抑えることができます。また、高血圧や脂質異常症が改善され、動脈硬化の予防にもつながります。

当院が外来通院中の糖尿病患者さんに呼びかけ、年1回開催している「ウォークラリー」には、医師や看護師、セラピストも参加しています。患者さんにクイズを出しながら一緒に歩き、体を動かす楽しさを共有しています。

2025年度
勤医協中央病院 新たな顔ぶれでスタート



副院長 麻酔科 **古明地 恭子**
副院長 整形外科 **柴田 定**
院長 糖尿病内分泌内科 **湯野 暁子**
副院長 消化器外科 **樫山 基矢**
副院長 呼吸器内科 **劔持 喜之**



統括院長 循環器内科 **鈴木 隆司**

誰もが心豊かに暮らせる社会をめざして

勤医協中央病院は、2025年度から湯野暁子院長を鈴木隆司統括院長と4人の副院長がサポートする新体制となりました。これまで同様に地域の中核病院として、急性期医療とがん診療、専門的医療を提供いたします。

災害時・緊急時には地域と住民を守る活動に尽力し、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざして「無料・低額診療制度」にも取り組みます。また、地域の皆さんや地域の医療・福祉施設と協力し、誰もが心豊かに暮らせる社会をめざして、国や行政への働きかけも積極的に行います。

高齢化社会が進む中で、医療や介護のニーズが拡大し、人材不足といった課題も深刻化しています。地域の皆さんが必要な医療を不足なく受けることができるように、全職員が医療の最前線で力を合わせ、質の高い医療を提供し続けたいと思います。

新院長挨拶
医師として働きながら子育て中



5人兄弟の3番目として生まれ、幼少期を奄美大島で過ごしました。民医連の医師だった父は「地理的な離島はあっても、人の生命に離島があってはならない」と日々奔走し、その姿を心に刻んで山口大学医学部へ。勤医協中央病院で初期研修・後期研修を受け、国立病院機構・京都医療センター・内分泌代謝疾患臨床研究センターでスキルを磨きました。

3人の子育てをしながら、「患者とともに、患者から学び、良質な医療を追求すること」をポリシーに日々診療しています。

発行／公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院　発行責任者／事務長 澁谷 幸伸　制作／有限会社 慶文社

たまねぎとぴっくす

勤医協中央病院医療活動交流集会

各センターや部署の取り組み・到達点などを発表

「医療活動交流集会」を2024年12月19日に、当院の多目的ホール「みなくるA」で開催しました。会場やオンラインで参加した職員や友の会、社員など合わせて約135人が11のセンターと2つの部署の発表に耳を傾けました。

救急センターの川端崇太救急救命士は、2024年4月に導入した高規格救急車で紹介患者の迎え搬送や転院搬送を行っています。自治体救急隊からの救急ホットライン対応も担当し、情報の収集・調整・発信による効率的な多職種連携に力を注いでいます」と発表し、運動器・リウマチセンターの大川匡医師は「他院が断ったCOVID-19感染症の患者を受け入れ、「断らない救急・断らない紹介・困った時に頼られる病院」として予定手術・臨時手術を行いました。患者さんの幸せにつながる医療を提供し続けたい」と意欲を語りました。

最後に湯野暁子院長から「職員一人一人の大きな力を生かせるよう、院内の人と仕組みを再構築することで全体最適を図り、地域医療への貢献を継続したい」との表明があり、参加した職員全員が力と方向を合わせることの大切さを再確認しました。







公益社団法人 北海道勤労者医療協会

勤医協中央病院

Kin-ikyo Chuo Hospital

〒007-8505 札幌市東区東苗穂5条1丁目9-1
☎011-782-9111（代表） FAX011-781-0680

●外来診療はすべて予約制です　●救急は24時間受け付けています

【休診日】第4土曜、日曜、祝日、年末年始（12月30日～1月3日）

診療科目

内科　呼吸器内科　循環器内科　消化器内科　糖尿病内分泌内科
リウマチ科　腎臓内科（人工透析）　血液内科　脳神経内科　緩和ケア内科
外科　呼吸器外科　心臓血管外科　消化器外科　肛門外科　肝臓外科
膵臓外科　乳腺外科　整形外科　泌尿器科　婦人科　眼科　精神科　救急科
麻酔科　リハビリテーション科　放射線診断科　放射線治療科　病理診断科

勤医協中央病院周辺地図



診療日（除土曜）には無料巡回バスを運行しています

詳しくは勤医協中央病院ホームページで

きんいきょう　検索

関連施設

勤医協伏古10条クリニック

〒007-0870 札幌市東区伏古10条3丁目2-8
☎011-786-5588 FAX011-782-3428

理念 －医療・福祉宣言－

私たち勤医協中央病院は、地域の人々に支えられ、この地域になくてはならない病院として発展していくことをめざし、ここに「勤医協中央病院　医療･福祉宣言」を発表し、「勤医協綱領」に基づき、その実現に努めます。

1. 安全・安心で納得のいく医療・福祉をすすめます。
2. 地域・友の会とともに健康で住みやすいまちづくりをめざします。
3. 互いに学び成長する職場・病院づくりに努力します。

基本方針

1. 札幌市北東部の地域中核病院として、急性期医療とがん診療、そして専門的医療を柱に、患者さんの要求に応える医療・福祉の連携を推進する医療機関として発展していきます。
2. 北海道の地域崩壊・医療崩壊を防止する運動・支援する運動の一翼を担う病院として行動していきます。
3. 災害時・緊急時には病院をあげて地域と住民を守る医療機関となれるように整備を進めていきます。
4. 患者さんとの信頼関係を大切にし、良質で安全な医療を、「共同の営み」として提供する、より高い技術も兼ね備えた病院をめざします。
5. 臨床研修病院として、民主的な集団医療の実践を通じて、人間の尊厳および権利を尊重できる医療人を育成します。
6. 地域住民や地域の医療・福祉施設とも協力し、子供から高齢者まで安心して住みつづけられるまちづくり、憲法と平和が守られる国づくり、医療・介護改善の運動をすすめます。
7. 民医連･勤医協綱領に基づき、無差別平等の医療実践をめざします。

私たちは、これからも無差別・平等の医療をめざし、無料・低額診療制度を継続します

医療連携・患者支援センター

連携医療機関専用連絡先
☎ 011-787-7037
FAX011-784-2735

地域に開かれた病院の窓口として以下の業務を行っています

- ●地域の開業医の先生方からの紹介や逆紹介
- ●患者相談窓口
- ●入退院支援と転院に伴う調整
- ●医療福祉相談
- ●患者さん、ご家族への療養支援・がん相談支援